

予選で思わぬ苦戦を強いられるも 作戦完遂の7位で今季を締めくくる

D'station Racing
PORSCHE
911 GT3 R



AUTOBACS SUPER GT SERIES Round.8 TwinRing Motegi

November 10 - 11 2018

岡山で幕を開けた2018年のSUPER GTも、いよいよ最終戦のときを迎えた。これまで7レースを戦ってきたD'station Racingにとって、総決算となる第8戦の舞台は、栃木県のツインリンクもてぎ。ポルシェ 911 GT3 R にとっては非常に相性の良いコースだ。D'station Porsche は事前のテストでも好タイムを記録しており、悲願の初優勝に向けては格好の舞台と言えた。

迎えた11月10日(土)の予選日は、朝方は曇り空が広がり、前日降った雨が残りウエットコンディションとなっていた。ただ、セッション開始直前から晴れ間も出たため、路面はすぐに乾きそう。D'station Porsche はまずは藤井誠暢がステアリングを握りコースインし、スヴェン・ミュラーに交代。ドライに転じたなかで交代しながら走行を重ね、午後の公式予選に向けてD'station Porsche を煮詰めていった。

ここでD'station Porsche は、1分47秒880というベストタイムをマークし5番手につける。チームにも明るい雰囲気広がったが、午後2時からスタートした公式予選では、思わぬ展開となった。D'station Racing は、予選Q2を目指すのはもちろんだが、当然決勝レースも見据えたタイヤ選択をしたい。ただそのタイヤを使うと、僅差のGT300だけにひょっとするとQ2進出が危ういかもしれない……。チームは慎重を

期し、藤井をアタッカーに据えQ1に挑んだ。

コンディションが上がるQ1の終盤を目指しコースインした藤井は、1分47秒669をマークする。ところが、ライバルたちが公式練習に比べて大幅にタイムを上げているではないか。

これではQ2進出はできないと、藤井はさらにもう1周アタックをかけるが、やはりQ2進出に必要な14番手には届かず16番手のまま、Q1はチェッカーを迎えてしまった。

チームにとっては予想外のQ1敗退となってしまったが、とはいえ重要なのは決勝。D'station Racing は、翌日のレースに焦点を切り替えることになった。

秋晴れに恵まれ、3万7000人もの観衆が訪れた決勝。1周目から今回スタートドライバーを務めたミュラーが圧巻の走りを見せていく。16番手から一気に12番手に浮上すると、2周目、6周目にポジションを上げ、一気にトップ10に食い込んできたのだ。とはいえ、今回の作戦を敢行するには、ミュラーにタイヤの酷使は許されない。今回、リヤタイヤのみの2本を交換する作戦だったからだ。ミュラーは逐次タイヤの状況をチームに無線で伝える。これならばいけそう……。24周を終えピットインすると、藤井に交代。チームは完璧な作業を終えピット静止時間を稼ぐと、藤井をコースへ送り出した。

レースに戻った藤井は、フロントタイヤの摩耗度を確認すると、8番手からペースを上げていく。すると、前を走っていた#55 BMW が近づいてきた。相手はタイトル争いをしているマシンだが、ペースは確実にこちらに分がある。藤井は41周目にこれをパスすると、7番手に浮上した。

その後も手綱をゆるめない藤井だったが、6番手だった#61 BRZ とはやや差が大きく、そのまま7位でチェッカーを受けることになった。"タラレバ"は禁物だが、あとわずかに予選順位が前だったら、もう少し上位にいったかもしれないほど、会心の追い上げをみせたレースだった。

この結果、4ポイントを加算したD'station Porsche だったが、藤井/ミュラー組のランキングは9位となった。本来ならば今季初優勝と、チャンピオン争いを展開しているはずだっただけに、悔しい結果と言える。

とはいえ、今季藤井とミュラー、そして何よりチームは今季すべてのレースで、極めてミスが少ないシーズンを送ってきた。今季はライバルたちの速さが抜けていた部分もあったが、この仕事を来季も続けていけば、もっといい成績が望めるはずだ。D'station Racing は来たる2019年シーズンに向け、気持ちを新たに最終戦の舞台を後にした。オフは長いようで短い。D'station Racing の戦いは続いていく。

PARTNERS



NEXUS GROUP





Satoshi Hoshino Team Principal

予選16番手からのスタートで7位フィニッシュだったので、いいレースだったと思います。スヴェン選手のプッシュが功を奏し、藤井選手も順位を上げてくれたので、戦略が功を奏したのではないのでしょうか。とはいえ今季は本当に予選が課題でしたよね。シーズンを通してみると大きなミスはありませんでしたし、みんなが持てる力を出し切れたと思っていますが、我々よりも力が強いチームがいたということです。来季に向けて、車両を含めた総合力を高めなければ、チャンピオンは狙えないと実感した1年でした。皆さま1年間のご声援ありがとうございました。



Kazuhiro Sasaki General Manager

今シーズンを振り返ってみると、表彰台1回という結果でしたが、最終戦も大いに頑張ってくれたと思います。やはり今シーズンを通じて課題は予選Q1をいかに突破するかというところでしたが、今回もその課題が出たと思っています。レースは予選後の時点で二輪交換作戦を採ることは決めていて、それでなければ上位に上がることはできないと思っていました。レース序盤にスヴェン選手が本当に頑張ってくれて、その走りには感動も覚えました。まだまだチームの力はこんなものではないと思っています。2019年もぜひ応援していただければと思います。



Toshiaki Takeda Team Director

やはり今回も予選が課題になってしまいましたね。悔しいです。16番手スタートからの追い上げで、今日のレース前にも悔いがないようにやろうと戦いましたが、いろいろな状況が考えられるなか、ドライバーがフロントタイヤを労ってくれて、スタッフも目一杯戦ってくれたので、その点は満足しています。みんながノーミスですからね。とはいえ今回は優勝を目指していたので……。SUPER GTの厳しさをみせつけられました。今シーズン、チームの強いところは見せられたと思いますので、みんなに『ありがとう』と伝えたいと思っています。



Tomonobu Fujii Driver

結果的には、16番手からのスタートで7位となりました。予選で硬めのタイヤを選んだことによってレースでは二輪交換作戦が採れたので、戦略は合っていたと思います。今回、もてぎは勝ちたかったですが、7位という結果となってしまったのは悔しいところです。最終的にランキングは9位となり、ヨコハマタイヤ装着車でも3位という結果で、2年目のチームとしてはいい結果ですが、当然目標はもっと上ですし、そのためには常に上位で勝負できるようなスピードを身につけなければいけません。足りないところを強くして、さらに上を目指したいと思っています。



Sven Müller Driver

僕たちの決勝レース自体はいいものだったよ。今季最終戦でスタートを任せてもらったのは名誉なことだし、何台かのマシンをパスすることができて、すごく楽しかったよ。戦略も良かったし、もし予選順位がもう少し前だったら、表彰台も狙えたと思う。全体的に今シーズンは少しアンラッキーが多かったよね。開幕直後は良かっただけに、もつとましくいと思っていたし、クルマの部分やドライバーのミスで苦勞した。それに予選が良くないので、順位を上げきれなかった。でもレースではポテンシャルがあることは証明できたことは良かったと思う。

Official Website : <http://dstation-racing.jp>

Facebook : <http://fb.me/DstationRacing>

PARTNERS



NEXUS GROUP

